



©加藤英弘

NHK交響楽団

～グリーグ没後100年・シベリウス没後50年記念～

最高の組み合わせで北欧の作曲家二人を聴く

常に最上の音楽的な時間を届けてくれる、オーケストラ・NHK交響楽団。

N響の略称で親しまれるこのオーケストラで今年没後記念の2人の作曲家、

ノルウェー出身のグリーグとフィンランド出身のシベリウスの代表曲が聴ける贅沢なコンサートを堪能したい。

グリーグの協奏曲には特別な思い入れがあるという、円熟のピアニスト・仲道郁代とN響の共演も必聴だ。

Ikuo Nakamichi

仲道郁代



©Katsuro Ueda



©Megu

藤岡幸夫 *Sachio Fujioka*

文=片桐卓也(音楽ライター)

2007年は北欧のふたりの作曲家の記念イヤーである。ひとりにはノルウェーのエドワルド・ハーゲルupp・グリーグ(1843～1907、没後100年)、もうひとりにはフィンランドのジャン・シベリウス(1865～1957、没後50年)。彼らの代表的な作品を演奏するのは、NHK交響楽団と指揮者の藤岡幸夫、そしてピアニストの仲道郁代。きっと名作の新たな魅力を教えてくれるだろう。

グリーグの作品の中で最も有名なのはイブセンの劇のために書いた付随音楽《ペール・ギュント》、そして《ピアノ協奏曲》だ。いずれもグリーグの若い時代に作曲された作品で、作曲家が意欲的に大作に挑んでいた頃の作品である。《ペール・ギュント》は30代の初め、そして《ピアノ協奏曲》はまだ20代半ばの作品なのだ。

『ペール・ギュント』は非常にユニークな劇で、自由奔放な主人公ギュントが世界の様々な場所を旅して、また故郷に戻ってくる物語。グリーグは1874～75年にその劇のための音楽を書き(劇の初演は1876年)、そこから計8曲を選んで、2つのオーケストラ用組曲にまとめた(1888、1891年)。いずれも一度は耳にしたことのあるメロディだろう。特に《朝の気分》(ソルヴェーグの歌)は有名である。

また《ピアノ協奏曲》は作曲家唯一の協奏曲で、現在でもよく演奏されるピアノ協奏曲のひとつ。演奏する仲道さんに、作品についての思い出を語って頂いた。

「最初に演奏したのは、たしか小学校6年生か中学校1年生の時でした。その時に使った楽譜をいまだに使っているぐらい、愛着のある作品です。イタリア語の楽語の読みとか意味を、自

分で調べて書いたりした、その鉛筆書きのメモもそのままなんです。グリーグの若い時代の作品なので、とても若々しいエネルギーと、新鮮な感覚に溢れた作品で、演奏していても楽しい作品です。これまでに何度も演奏して来ましたが、共演させて頂く指揮者、オーケストラによって、いつも作品の印象が違いますね。スケールの大きな演奏をなさる指揮者の方ならば、やはり第1楽章などのスケールの大きさが印象に残りますし、繊細な指揮をなさる方ならば、第2楽章の叙情的な旋律が印象に残る、そんな違いがあります。だから、今回もまた新しい経験が出来るかと期待しています。」

グリーグは1869年にコペンハーゲンでこの作品を初演した後、何度も改訂を施している。リストの意見を入れて、オーケストラレーションを直すなど、生涯に渡ってスコアに手を入れた愛着のある作品でもあったのだ。

フィンランドの作曲家シベリウスは、日本でもファンの多い作曲家だが、特にイギリスでは、その交響曲が世界で最も愛されている作曲家だと言われている。日本で渡邊暁雄のもとで学んだ後、イギリス・マンチェスターの音楽院で指揮を学んだ藤岡幸夫もシベリウスの大ファンだ。

シベリウスの交響曲は全部で7曲(クレルヴォ交響曲を除く)。そして第8番はずっと作曲を継続していたが、結局は未完に終わった。交響曲第1番は、初期の管弦楽曲などに続き、1898～99年にかけて作曲された。その作曲の直前にベルリオーズの《幻想交響曲》を聞き、その影響を強く受けたという説もある(第4楽章に「幻想曲風に」というサブタイトルが付けられている)。またチャイコフスキーの「悲愴」の影響も強いとされている。今回の藤岡&N響の演奏からはどんな響きが聴き取れるだろう?

藤岡 幸夫(ふじおか さちお)

故渡邊暁雄、小林研一郎、松尾葉子に師事、サー・ゲオルグ・ショルティのアシスタントを務める。英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒。日本フィル指揮研究員を経て1990年に渡英。94年にBBCフィルハーモニック副指揮者に就任、ロンドンの名物「プロムス」にデビュー。2006年スペイン国立オヴィエド歌劇場にデビュー、大成功を収め、09年に再客演決定。現在、関西フィルハーモニー管弦楽団正指揮者。02年度渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。
http://www.sachio-fujioka.net

仲道 郁代(なかもち いくよ)

古典からロマン派までの幅広いレパートリーで、独奏者・オーケストラのソリストとして国内外で活躍。2005年には、英国チャールズ皇太子夫妻ご臨席のもと、イギリス室内オーケストラ主催の「結婚祝祭コンサート」に出演し絶賛された。03年からは、地域社会の活性化と音楽文化の発展を目指し、大阪音楽大学特任教授、財団法人地域創造理事としても活動中。デビュー20周年にあたる06/07シーズンは、全国各地で記念リサイタルを行っている。
http://www.ikuyo-nakamichi.com

NHK交響楽団

1926年に日本初のプロ・オーケストラとして結成された新交響楽団が、日本交響楽団の名称を経て、51年NHK交響楽団と改称。今日に至るまで、カラヤン、ストラヴィンスキー、アンセルメ、マタチッチなど世界一流指揮者を次々と招聘し、歴史的名演を残している。国内での演奏会のほか、定期的な海外公演、セミ・ステージ・オペラなどの斬新な企画、委嘱作品の充実、メジャー・レーベルとのCD録音など、その活動と演奏は国際的にも高い評価を得ている。

私にグリーグの協奏曲がくれたもの(仲道郁代)



©Kiyotaka Saito

グリーグのピアノ協奏曲にまつわる、懐かしい思い出は、父の転勤で中学時代にアメリカに住んだ時のものです。慣れない異国の生活で、言葉も十分に出来ないで、なかなかクラスの中に溶け込めなかったのです。そんな時に先生が、「あなたはピアノが弾けるんですよ。それならばなにか弾いてもらなさい」と奨めてくれて、それでグリーグの《ピアノ協奏曲》の第3楽章をみんなの前で弾いたんですね。そうしたら、クラスメイトがみんなびっくりにして、一躍クラスの人気者に。そんな経験もあって、グリーグは思い出深い作品なんです。

●●●●● MUSIC ●●●●●

NHK交響楽団

～グリーグ没後100年・シベリウス没後50年記念～

【日時】10月19日(金) 開演 19:00 ※18:20～18:35 指揮者によるプレトーク

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】藤岡幸夫(指揮) 仲道郁代(ピアノ) NHK交響楽団(管弦楽)

【曲目】グリーグ:《ペール・ギュント 第1組曲》Op.46より 朝の気分、アノトラの踊り
《ペール・ギュント 第2組曲》Op.55より ソルヴェーグの歌
ピアノ協奏曲 短調 Op.16 (ピアノ:仲道郁代)
シベリウス:交響曲第1番 短調 Op.39

【チケット(税込)】好評発売中

一般 S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 学生B席2,000円
メンバーズ S席5,400円 A席4,500円 B席3,600円